

矢作川流域圏懇談会通信

R6 川部会編 vol.1



発行日：令和6年7月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第64回川部会WGを開催しました！

第64回川部会WGは、今期前半（令和5年度）の活動を振り返るとともに、今後の活動計画・目標について話し合いました。また、総合土砂管理の取り組み視察後の意見交換、水力発電に関する情報等について話し合いました。



日時：令和6年6月27日（木）15:00～17:00
会議場所：中部電力株式会社 愛知水力センター 別棟2階会議室
参加者：20名（内オンライン参加2名） ※事務局を含む

◆主な会議内容

1. 矢作川流域圏懇談会について



今年度、最初のWGであることから、矢作川流域圏懇談会の設立要旨・規約等を確認しました。例年は年度末に実施する全体会議を区切りとして、年度ごとの目標を設定していましたが、昨年度より11月に全体会議を実施しているため12月1日～翌年11月30日の1年を1つの期として整理することとしました。今年度は設立から15年目ですが、昨年（14年目）は中間報告会としているため、第14期の継続中となります。

第13期：令和4年4月1日～令和5年3月31日（昨期）
第14期：令和5年4月1日～令和6年11月30日（今期）
第15期：令和6年12月1日～令和7年11月30日（来期）

2. 今期前半（令和5年度）の活動成果と今後の活動目標



今期前半（令和5年度）に実施した活動としては、川部会が取り扱う3つのテーマ「①河道に関する課題（本川・支川）・②流域に関する課題・③交流に関する課題」に関して今後の活動計画や方針、課題等の意見交換を行うとともに、河道に関する課題（本川・支川）に関して、矢作川関係の卒業研究紹介および意見交換の実施状況を報告しました。今期後半（令和6年11月まで）も、今期前半の活動目標と同様に3つのテーマについて、「山・海・まちをつなぐプラットフォームとしての役割を認識し、他部会や外部団体を巻き込みつつ、行政や市民団体などが参加したくなるような部会を創造する」を目標に活動を進めていきます。

3. 情報共有・意見交換



(1) 総合土砂管理に向けた対応および置土流出状況

豊橋河川事務所が進めている矢作川水系総合土砂管理の概要および現状の課題、課題解決に向けた取り組みである土砂供給実験（置土実験と覆砂実験）の概要について事務局より報告しました。また、越戸ダム下流の置土について、5月27日～29日までの降雨・出水状況と置土の流出状況も併せて報告しました。

(2) 水力発電に関する情報共有

中部電力株式会社の北井氏より、日本を取り巻くエネルギー資源の現状、水力発電の主な特徴、矢作川水系の水力発電等について報告されました。

(3) 川部会の活動計画について

事務局より、今期後半の活動計画について説明しました。8月頃の次回WGで流域の自治体による流域治水の取り組みについて具体化していく予定です。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●今期前半(令和5年度)の活動成果と今後の活動目標

- ・知り合いの海苔販売店によると、去年から矢作川の手取が美味しくなったと聞く。漁業者との交流もできたら面白いと思うが、川部会において今まで漁業者との関わりはあるのか。(鈴木)
 - ▶ 去年のバスツアーにおいて、下水道の終末処理場を見学した際に話題となった。身近なもので変化を実感できるのは良いことである。(内田)
 - ▶ 愛知県水産試験場の方から、窒素やリンを試験的に高めて排水する事例を紹介頂いた。(蔭山)
 - ▶ 直接的な関係はわからないが、三河湾は伊勢湾より狭くて浅いため、少なくとも試験の効果が表れやすいと考えられる。自然水だけでなく、下水道の排水が川を流れることを考慮して流域全体として議論する必要がある。(近藤)
- ・50年の間に魚、鳥、虫も種類がどんどん減っており、生物多様性が失われているという話を聞き、人間が行ったことや気候とどのような関係があるのか、調査データ等があるのかどうかも含めて調べていきたいという思いがある。(鈴木)
- ・私も生物多様性の喪失は実感している。生物多様性は何のために必要なのか、反省も含めて新しい物差しで日本の自然とは何かを考える必要がある。(松沢)
 - ▶ 生物種の減少を体感的に記憶されている方は多いが、科学的なデータとしては残っていないことが多い。(内田)
 - ▶ 昔と現在の生活様式やなりわいを比較して変化を詳細なデータを基に議論していく必要がある。(鷺見)
- ・人口が右肩上がりの時代から今後は右肩下がりの時代に突入していく時代の転換点の中で、次の世代にどのような姿を残すべきかを議論すべきである。(近藤)
 - ▶ 矢作川の現状だけでなく、社会的な変化の節目に立っていることを考慮に入れ、どのような議論を展開していくべきかを検討する。(内田)
- ・流域治水について関係市、町の取り組みを共有し議論することを手始めとし、その後、環境面の考えについても掘り下げて議論していきたいと考える。(蔭山)

●総合土砂管理に向けた対応および置土流出状況

- ・天竜川における総合土砂管理のノウハウ等は共有されているか。(鈴木)
 - ▶ 情報交換はしているが、土砂粒径や河床勾配が異なるため河川の特徴を考慮しながら検討する必要がある。(蔭山)
- ・令和7年度から置土を計画している明智川合流点～時瀬における地元理解の状況はどうか。(内田)
 - ▶ 良い漁場であるとともに頻りにダンプトラックが走行することに地域の方々が懸念している状況である。越戸ダムの土量を今年度以上に増やすことも考えられるが、令和6年度の結果を踏まえながら状況を整理し、今後の方針を検討する。(蔭山)
- ・モニタリング結果で、これ以上置土の量を増やせないという判断基準はあるか。(鈴木)
 - ▶ 堆積過多であると河道管理上問題があると考えられるため、置土実施前のシミュレーションと現地状況の確認結果を踏まえ、継続の判断をする。(蔭山)

●水力発電に関する情報共有

- ・矢作ダムからの放流パターンは、昼は放流量がほとんどなく、日が落ちてから多くなり、夜遅くにまた少なくなるパターンが一般的となっているが、太陽光発電と関係している理解でよいか。(内田)
 - ▶ 太陽光発電の整備が進められており、日中の天気の良い日は電気が余るため、日中に揚水発電で電気を使っている状況である。(北井)
- ・水力発電の目指すべき要求としてkwhであるならば小規模な水力発電でも価値のあるものは進めていくのか。(境)
 - ▶ 維持流量発電により、年間発電電力を高める方針である。(北井)
- ・愛知池等の標高が高い池に発電用の下池を造ることで発電することは可能なのか。(鈴木)
 - ▶ 落差が必要であり、地形的条件で厳しいため、建設が難しいと考える。ただし、電力を売る目的でなく、自家発電では事例がある。(北井)
- ・ダム湖の土砂の動態管理はどのように実施しているか。(鷺見)
 - ▶ 毎年深淺測量を実施し、河床を確認している。(北井)

●川部会の活動計画について

- ・流域治水の観点から流域の自治体に取り組み等を聞き取りし、内容によっては現地で確認することを検討する。(蔭山)

今後の予定

■次回 WG 日時：8月頃を予定

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 蔭山、係長 小池、技官 中野

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R6 フィールドワーク vol.1



発行日：令和6年7月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆総合土砂管理の取り組み視察

今回は、越戸ダム下流で進められている矢作川水系総合土砂管理に向けた取り組みについて、越戸公園および越戸ダム下流の水管橋でフィールドワークを実施しました。

総合土砂管理について

矢作川では、上流の山地から河口・海岸までそれぞれの領域において、土砂の移動によって生じた治水・利水・環境に関する多くの問題を抱えています。このような問題を流砂系全体の問題としてとらえ、矢作川に関係する人々が一体となって解決し、よりよい矢作川を実現していくため、総合的な土砂管理・堆砂対策を実施していく必要があります。

日時：令和6年6月27日（木） 13:00～14:45

場所：越戸公園、越戸ダム下流（水管橋）

案内：愛知工業大学 内田臣一氏、豊橋河川事務所

参加者：17名（事務局を含む）

◆フィールドワークの記録

① 土砂供給実験の視察（越戸公園）



愛知工業大学の内田先生から土砂供給実験で着眼すべき環境について、現地で採取した底生動物（水生昆虫・貝類）および付着藻類を題材に説明していただきました。

矢作ダム建設後、アユが餌とする付着藻類が変化しているため、アユの生息環境との関係性について意見交換しました。また、造網性トビケラ類（オオシマトビケラ、ヒゲナガカワトビケラ）と土砂流入の関係について、生息に適した礫床環境と評価指標を説明していただきました。

また、昔と今では土砂採取状況やダムの有無、水質状況等が大きく異なり、問題が複合化してきている状況であるため、客観的な数値での評価が難しいのではないかという意見が出されました。

② 置土実験の視察（越戸ダム下流）

豊橋河川事務所から越戸ダム下流で実施されている置土実験の概要を現地で説明しました。置土実験後の地形的変化や河床材料の変化、底生動物（水生昆虫・貝類）等の環境変化について定量的に評価する方法について意見が出されました。また、5月27日～29日までの降雨・出水による置土流出状況について、矢作ダムからの放流のピーク流量の約490m³/sに達する前に流出が開始していたことを説明しました。

置土流出状況



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 蔭山、係長 小池、技官 中野

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所流域治水課（cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp）までお送りください。

